

(議長)

それでは、会議を再開いたします。

農業委員会、産業振興課所管の予算並びに関連議案について、一括補足説明を求めます。
産業振興課長。

「産業振興課長」(予算説明)

おはようございます。

(「おはようございます」の声)

「産業振興課長」(補足説明)

それでは、私の方から農業委員会と産業振興課所管分の令和4年度予算について、今年度から定例会資料に農業、林業、水産、商工の主な施策を一覧として、提出しておりますので、新規事業を中心に予算資料及び定例会資料に基づき、説明させていただきます。

予算資料の13ページをお開き願います。No.167番、有害鳥獣駆除についてです。定例会の資料は19ページとなります。昨年度に引き続き有害鳥獣駆除実施隊員の確保に向け、狩猟免許取得の経費の助成を行う他、本年度は捕獲用の小型の箱罠を購入してまいります。

次に、168番から170番までの労働費でございます。予算資料でございます。定例会資料は21ページとなります。昨日の議案第1号で議決頂いた檜山地域人材開発センターの正面外壁改修に合わせ、新規事業として169番、檜山地域人材開発センター転落防止手すり設置事業を計上した他は、事務事業の内容は前年と変わっておりません。

次に、172番から187番までの農業費及び農業委員会費でございます。定例会資料は18ページとなります。新規事業は特段ございませんが、昨年度から始まった農業競争力強化農地整備事業の円滑な実施に取り組むとともに、定例会資料に記載とおり農業者の経営基盤を支える各種の施策を展開してまいります。

次に、188番から198番までの林業費でございます。予算資料のページは13から14ページにまたがりますので、ご留意願います。定例会資料は19ページとなります。昨年度から実施している森林環境譲与税を活用した各種の取り組みを加速させる他、町有林などの適切な維持管理に努めてまいります。また、本年度は町長の執行方針にもございましたが、木育事業の一環として、出生時に地場産材を活用した記念品などを贈るなど、地場産材の更なる活用に取り組んでまいります。

次に、199番から217番までの水産業費と関連がございますので、予算資料の16ページ262番から267番までの港湾管理費でございます。定例会資料は20ページとなります。新規事業は3本ございまして、全てが、関係町が一体となって取り組む広域事業として、行われるものであります。朱書きになっております。予算資料の205番、秋サケ資源増大対策であります。簡潔に言いますと近年のサケの好漁を踏まえ、更なる生

産性の向上を目的に、乙部にあるサケのふ化場が手狭となったことから、ふ化施設を増設するものであります。

次に、予算資料の208番、檜山ニシン海中中間育成施設整備でございますが、これまでニシンの稚魚は一斉に海の方に放流していましたが、検体の状態をより良い状態にするために、一定の期間、漁港内で馴致するものであります。内容としては今現在、五勝手や泊の漁港にあります。サケの海中飼育と同じようなニシンバージョンだと思っていければと思います。

次に、予算資料の213番、キタムラサキウニ付加価値生産向上対策でございます。これまで水揚げをして、即出荷といった流れを近年のウニの好漁を踏まえ、各地区にウニの出荷用のかごを整備し、出荷時期をずらすなどの工夫をし、単価アップを含め、付加価値の向上に資するものでございます。また、予算付けはこれからとなりますが、昨日、町長から行政報告のあった信金中金の企業版ふるさと納税を活用し、サクラマス類の海面養殖などに取り組む、豊かな前浜づくりプロジェクトを本年度から展開してまいります。

また、港湾管理費についてですが、昨日の第1号議案で議決頂いた直轄港湾整備事業5,900万円と合わせ、フェリー岸壁の整備と南埠頭物揚げ場の整備を加速してまいります。

次に、予算資料の14ページから15ページ、事業No.は218番から229番の商工費でございます。定例会資料は21ページとなります。新規事業として228番、経営発達支援計画推進補助を計上しておりますが、内容としては、町と商工会の共同で申請をし、昨年認定を受けた第2期経営発達支援計画の推進を支援するものであります。また、定例会資料に記載のとおり、コロナ禍の中、依然として厳しい環境にある事業者に対し、定例会資料に記載のとおり、切れ目のない支援を行ってまいります。

次に、予算書の252ページをお開き願います。議案第12号、令和4年度江差町公設地方卸売市場事業特別会計予算についてであります。

歳出な主なものとして、市場の施設の維持管として57万3千円を、また一昨年4月から営業を始めた檜山卸協同組合に対する補助を172万円、同組合に対する運営資金の貸付600万円が主なものであり、歳入歳出の総額を825万7千円としたところであります。

なお、上ノ国町と共同で行っている支援につきましては、本年度が最後となることを申し添えます。

最後に、予算全体を通じての歳入についてですが、風力発電事業の部材の運搬が4月の17日から始まります。新北埠頭を長期にわたって占用するという事で、港湾使用料について、昨年度から1,350万円増額の1,700万とさせて頂きました。その他の歳入については、前年と大きく変わるものではないかと存じます。

以上、令和4年度産業振興課所管の予算及び提出議案の説明といたします。

ご審議、よろしくお願ひします。

(議長)

以上で、補足説明が終わりましたので、質疑を許します。

質疑希望ありませんか。

小野寺議員。

「小野寺議員」

はい。議長。

(議長)

小野寺議員。

端的にお願いします。

「小野寺議員」

議長、時間あるんだから、あんまり慌てない。(議長：小野寺議員)

はい。始めます。

先程、課長説明ありました定例会資料の本当によくまとまった、見やすいなと思っています。資料の18から21なのですが、少し絞って漁業に絞って資料20、3点程お聞きしたいと思います。財政課長いらっしゃるんですね。こういうやり方、これ他の課もね、こうやってまとめて出してもらうこと出来ないんですかね。よその町、だいたいこういう形式で分かりやすくやっていますよ。ちょっと検討して下さいね。ごめんなさい。

それで課長、産業課長。漁業に絞ってやりたいと思うんですが、個別のことも2つ程聞きたいんですが、その前に、その前に。

江差町として本当に頑張ってるという側面、従来、それから関係町、もしくは檜山漁協が主体となっている事業に助成していくと。2段構えというか3段構えでやっております。それでどうしても、関係町なら自治体ということである意味作りやすいんでしょうけれども、檜山漁協となるとなかなかこれは長い歴史的な経過、ましてや今の檜山漁協の財政状況といいますか、からしてもなかなか難しい、仕組み作りが難しいと率直に思います。思いますがやはり海に境界はない。ニシンが乙部にいくとかですね、本当に今の日本海全体が北海道も何年も前から振興策を掲げてなかなか上手くいってない部分もあるんですけども、江差町としてもやはり今回特に新規事業、関係町もしくは檜山漁協ということで、相当苦労してこういう仕組み作りがあったのかなと思うんですが、私は更に関係町檜山漁協が少しでも主体的になったつまり日本海は1つなんだと。全体で振興策をはかっていくと。増養殖を進めていくんだということもやっていかなければならないと思うんです。その点について、課長なのか場合によっては町長、副町長でも構わないんですけども、引き続きこの点について力を入れてもらいたいんですが、その点について所見あればお聞きしたいと思います。これが1点目。

それから色々お聞きしたいことがあるんですが、2つに絞ります。新規事業なかなかわかんない部分があるので、従来からの事業で今どうなんだということをナマコとウニに関して聞きたいと思います。それでこれは財政課の部分で言えば、財政の観点で例えばナマコは従前の補助率4分の3が今2分の1ですね。それからウニに関して言うと、確か3分

の2が2分に1ですか。ということで補助下げられていると。しかし私は、ナマコにしてもウニにしてもどうなんですかね、ここお聞きしたいところなんですが、まだまだ行政支援が必要だ、まだまだきちっとした事業体系、技術的なもの、確立する上でもまだ公的な支援が必要なんだと、私は思うんですけれども現状も含めてナマコ、ウニに関して教えて頂きたいと思います。以上3点です。

(議長)
課長。

「産業振興課長」

まずもって、檜山管内全体ですね、漁業振興の在り方でございますが、令和3年度ですね、檜山の水揚げ、私持っていますが、鮭が1位です。2位はナマコです。3位がウニだということです。イカやスケソというのは、その欄外だということなんです。

今、檜山漁協が一生懸命取り組んでいるのは、まず鮭なんです。鮭が豊漁で、昨年檜山全体で7億を水揚げしています。それで、今年、今回の事業にも予算にも上げましたが、種苗を作る施設を増設したいということが1つ。それと鮭の海中飼育を各漁協に1個ずつ入れたものを2個にしたい。そういう検錨を作って、それを海に放すというような取り組みをまずしっかりやっていきたいというのが、檜山漁業に考え方。

それと、ナマコなんですが、実はこのコロナ禍の中でナマコの特に江差のですね、ナマコの単価というのが過去1番を記録しています。今、キロ単価8千円にも上がっています。

ただ、コロナの中で需要がなかなか止まっていますので、資源の確保と同時にですね、取る量もですね、漁業者の皆さんで話し合いをしながら管理しているという状態です。ですから単価が高い時にしっかり出したいんですが、資源の確保をしながら需要が動いた時にまた、そら出すぞ、というようなことを考えていることでございます。

あと檜山漁協の1つの課題ということでありますが、各地区で今トラウトサーモンの海面養殖が熊石、大成、奥尻で始まっています。江差も恐らくトラウトサーモンか何かの魚種ですね、海面養殖が始まりますが、これまで海面養殖に水揚げというのは檜山漁協の水揚げになっていなかったということです。それがこれから各地区で始まるものが、檜山漁協主体として取り組むことによって、檜山漁協の水揚げに繋がるということですから、ここは各地区が頑張ると1億くらいの上乗せにはなるんだろうなというような思いをしております。

それと、再三再四言われておりますイカの不漁の原因はマグロです。マグロがTACの漁獲可能量の影響を受けて、檜山管内は1トンにも満たない漁獲量だったことです。ですから、たくさん取れるマグロ泳いでいますが、取れないと、イカにもいたずらするというような悪循環が今起きているということです。これは、檜山漁協、北海道、あるいは国、そういった中でですね、色々と議論していかなきゃならないことなんだろうなと思ってますが、そういった意味では、色んな可能性を秘めていると。檜山漁協全体の計画は30億の計画立てていますが、今年は27億ということで3億くらい足りないということですか

ら、そういった今言ったナマコ、サーモン、あるいは鮭、こういったもので補完しながら事業計画に乗せていくというのが、今の戦略だということを答弁させていただきます。

それと、ウニとナマコですが先程言ったとおり、ナマコは江差のナマコ過去1番の単価を記録しております。それとウニでございますが、道東の赤潮の影響を受けまして、ウニの単価もアップしています。昨年、江差も3,500万程水揚げしていますが、それは道東の影響もあるんでしょう。漁業者に言わせると、やはり蝦夷バフンウニが一番単価がいいということで、今日お聞きしたらですね、キロ単価、北紫ウニ、ノナという物ですが、あれはキロ単価1千円です。それがガンゼ、バフンウニになると2千円倍以上するということなので、ここは昨年からですね、町の方も蝦夷バフンウニの種苗放流、ここをしっかりと支援していくということで、予算昨年から付けているといったところでございます。

以上です。

(議長)

はい。いいですね。

はい。小野寺議員。

「小野寺議員」

わかりました。要はもちろん行政の支援ということも大事ですが、もっとそれ言えば現場、現場がそれによって頑張れるかという部分だろうと思うんです。

その点で、2つお聞きしたいんですが、まず現場で言うと本当に取りあえず、よその町はともかく、江差の漁師の方、漁業関係者が本当に一緒になって頑張るかどうかということだろうと思うんですけれども、なかなか財政が厳しいという部分で言うと、すべてを網羅的に支援するというのもこれはまた厳しいのかも知れませんが、例えば絞って聞いた方がわかりやすいので、今ナマコ、ウニの方向性、本当に私着実だなと思うんですが、現場ではこのナマコ、ウニに関してもう少しこういうところで町に支援して欲しいと、そういうどういう声が出ているんでしょうか。もしくは、今までの部分で言うと着実にきているということなのか、ナマコとウニに関して、教えてもらいたい。これがまず現場の分ですよね。

でもう1つ。どうしても、これなかなかよその団体ですので、可能な部分教えてもらいたいんですが、檜山漁協の体力と言ったら失礼な言い方なるんでしょうか。

この間、本当に苦労して、苦労してやってきております。現状、今どういうふうになってきているのか、これは檜山漁協だけじゃなくて江差の漁業の皆さんも一緒にやっていたらなければならないという意味では、大事な問題点だと、私は思っているんです。可能な部分教えて頂きたいなと思います。以上です。

(議長)

産業振興課長。

「産業振興課長」

まず、ナマコの取り組みですが、実は江差の浜というのは各地区と違ってですね、色々な魚種に着業する方が非常に多くて、逆に働き者が多いですね。浜だということを檜山漁協の幹部からも聞いております。それだけ1年間通して色々なことをやっている地区なんです。そういった中でナマコはですね、この69名の漁業者が一体となって取り組む唯一のですね、取り組みだと私認識しております。そういった中で今回先程言った豊かな前浜づくりプロジェクトの中では、せっかく一生懸命種苗を作って、今江差の港湾に水化式のイカダを入れてですね、牡蠣殻を入れたところに種苗を入れて、それが成長したら海の中に落ちていくんですが、その行き場所がなかなかはっきりしないということが分かってきて、今回豊かな前浜づくりプロジェクトでは、ナマコ増殖床というものを海中の中に沈めます。それは後志の方でも効果があったという情報を得てですね、今回そういうナマコの団地化というんですかね、そういったものに取り組むということで、浜の方と話をしております。

それと荷捌き場の方で種苗生産をやっていますが、少し手狭だというお話も聞いていますが、一時期開陽丸の艇庫の方も使わせてもらったりもしていますので、今後そういった浜の人達が拡大したいという思いがあれば、今ある施設をですね、有効活用することも1つの方策かなと考えております。

あと檜山漁協全体のお話ですが、先程の繰り返しになりますが、まずは鮭とですね、ウニとナマコ、ここをしっかりとやるということ。あと各地区で取り組んでいるトラウトサーモン、マス類の水揚げを自分達のものにする、そういったものをですね、しっかりとやっていくということが大事だと思います。以上です。

(議長)

いいですね。

次、西海谷議員。

「西海谷議員」

農業漁業についてはですね、非常に色々手をつくしながら努力しているなど有難うございます。

それで、私一番問題なのはですね、育てるだけじゃなくてそれをですね、地元で加工するという2次産業の方に繋がりというのは非常に大事ではないのかなと思っています。これなかなか個人はですね、江差町の今現状の中の個人の方々、それぞれ努力していますけれども、なかなか大きな設備投資等々ができない。従っていわゆるその地元の物をですね、江差で加工して、そして例えば、ふるさと納税であったり、色々なところのですね、外商に結び付けることがなかなか難しいという現状。これをですね、行政として何とかですね、江差でしっかり取れるような、特にニシンもそのとおりでございます。

そういうことも含めると、今後の行政としてのですね、考え方をですね、ちょっとお聞かせ下さい。

(議長)

はい。振興課長

「産業振興課長」

西海谷議員から、町内で獲れた物の加工する場所、あるいは売り先も含めてですね、というご質問でございます。

まず、今回の海面養殖の事業については、事業計画で記載させて頂きましたが、マーケットイン型ですね、マス、サケマス類を販売していきたいということなので、この9月以降に種苗を入れますが、来年の6月の出荷までに結び付くマーケットとしっかりと握手しながら、欲しい物を繋げるということで、そこには恐らく加工というものもリクエストの中に入ってくるんでしょう。そういった展開の中で我々もそういった部分は少しこれから考えていきたいなと思います。

ただ、ニシンについては、今現在、漁協の女性部の皆さんにお願いをして、この春以降に1口ニシンという商品がまず、出ていく予定でございます。あと町内で昨年、江差観光まちづくり協議会の方の事務局もやっていますが、200トンのニシンを加工させて頂きました。今年の3月前にはですね、20トンのニシンが全て捌けました。それは町内の販売あるいは、ぷらっとの販売、あと町内の事業者の皆さんが甘露煮を作ったりすること。あと、ニシンチャレンジカップで新たなニシンバーガーなどの取り組みも始まってきたということです。

ただ、ニシンの一番の問題は、たくさん種苗放流していますが、なかなかそのニシンに着業する漁師の方々が少ないということが1つ問題でもあります。今江差町内で4名の方が着業しています。乙部ではしていません。恐らく熊石、せたなでもしてないんでしょう。

ただ、ここニシンの付加価値を上げながら、しっかりと着業できるようなものにしていかなければならないなと思っています。最近では、ポールスター札幌のランチの方にですね、江差のニシンが直接、江差のニシン下さいという電話が鳴るようになりました。これも1つのチャンスだなと思っていますので、こういった小さな取り組みをですね、しっかり繋げながら江差のニシンのブランド化に繋げていければなと思います。以上です。

(議長)

いいですか。

はい、西海谷議員。

「西海谷議員」

私はですね、特にふるさと納税もですね、今年1億5千万を目標にしているという、去年の倍近いんですけども、やはりその供給する物は生だけではなくてですね、しっかりそれを加工してですね、そして高単価のですね、商品として今後のですね、ふるさと納税に繋げていく。こういうこともですね、やはり、しっかり地元の方でですね、そういう仕

組み作りをする、仕組み作りをですね、行政としてやはり考えていかなければならないのかなと。

これは個人に任せるだけでなく、お互いにですね、しっかりその辺をですね、考えながら江差の地元で獲れるものをですね、そういう形で経済に繋げていくということが大事なのかなと、このように思っておりますので、是非ですね、その辺も含めて今後対応して頂きたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。もし、答えることがあったらお願いいたします。

(議長)

答弁。産業課長。

「産業振興課長」

ふるさと納税、財政基盤強化の取り組みの中、あるいは今回の執行方針の中で1億5千万、2億という目標を高い目標持ちながら望むということです。私どもも、江差の1次産業の物をしっかりそういった場面にですね、売って頂きたい、あるいは売りたいという思いがございます。

実は昨年のアワビの養殖モデル推進事業で、2万個のアワビを加工させて頂きましたが、2月末現在で、2万円の寄付で200セット以上が活アワビがもう売れているということでございます。

それと今、煮たアワビと蒸したアワビ、こちらの方も今パッケージを作って商品化するところまで来ております。

それと、アワビのフリーズドライの可能性も追求していきまして、函館の道立工業技術センターの方に何回か通いまして、アワビのフリーズドライの可能性も今追求しているということでございます。

西海谷議員の言った町内で何とか加工して流通する体制を取り組むということですが、これは積年の課題でもあるんでしょう。ただ、これからふるさと納税を基軸に、この町がしっかりと財政基盤強化するというの中では、そのハードルをですね、少し役場全体で、風穴を開くと、開けると言うんですかね、何とか取り組むようなことをまちづくり推進課などと連携しながらやっていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

(議長)

他に質疑希望ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

希望ありませんので、農業委員会、産業振興課所管予算並びに関連議案についての質疑を終結いたします。

説明委員入れ替えのため、暫時休憩を11時10分まで、休憩いたします。

休憩 11:00

再開 11:10